

第 I 部 第六期計画の報告

1 章 広報活動（日本文化の発信）	……	8
(1) 一般広報活動		
(2) 提案受託型広報活動		
－歴史街道「企業研修プログラム」の推進		
(3) 地域文化連携（次世代育成型）広報活動		
－歴史街道「教育プログラム」の推進		
(4) 個人会員のネットワークづくり		
－「歴史街道倶楽部」の推進		
2 章 歴史文化を活かした余暇づくり	……	22
3 章 歴史文化を活かした地域づくり	……	30
4 章 協議会運営	……	37

第 I 部 第六期計画の報告

1 章 広報活動（日本文化の発信）

（1）一般広報活動

①事業目的・方針

「歴史街道」の知名度向上、理念訴求、歴史街道ブランドの強化、歴史街道ファン層の拡大及び地域の歴史文化情報の発信を総合的に行うため、対象に応じたきめ細かい情報発信に努めた。

②第六期の概要

i) マス媒体への戦略的情報発信

マスコミへの情報発信を積極的に実施し、歴史街道の理念、取り組みを周知することに努めている。また、地域情報のハブとして協議会を活用してもらうよう関係者に働きかけている。

- ・歴史街道の事業を紹介した「TOPICS」を作成、「歴史の旅人」と合わせ送付。歴史街道の認知度向上、協議会の役割についての認識を深めてもらうため協議会の事業紹介、「TOPICS」や歴史街道倶楽部会員誌「歴史の旅人」等をマスコミ・雑誌社に積極的に配信（6、9、12、3月）。関係者への「TOPICS」（事業紹介）の送付（約1,500件。7、1月）
- ・積極的プレスリリース（H21 1件、H22 8件、H23 10件）。こうした活動を通じ、協議会の取り組みが掲載（新聞、雑誌等）されている。

ii) 宣伝タイアップ活動

歴史街道計画及び協議会活動に対し、理解・協力いただき、メディアにおいて宣伝タイアップ活動を行っている。

- ・朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」の企画、取材協力。
（年2回、30分ないし60分の特番形式で放送）【参考資料参照】
- ・CATV「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」（月2回更新）
歴史街道エリアをサービスエリアにもつケーブルテレビ局が協力して制作する番組。各ケーブルテレビ局（14局）において放映。【参考資料参照】
- ・デイリースポーツ「ちょっとお出かけ歴史街道の旅」の連載。（H22.3～H23.12）
- ・月刊「歴史街道」（PHP研究所）ロマンへの扉でのPR。（見開き2ページ）
- ・FM-COCOLOでの歴史街道の取り組み紹介。（H22.12.10、17）
- ・JAF-Mate 関西「車で行く歴史街道の旅」の連載。（H23.6月号～）
- ・「一筆書でたどる歴史街道の旅」CATVで放映。（KCN, ベイコムほか H24.1～2）
- ・奈良日日新聞における協議会発足20周年特別紙面の編成。（H24.3.14）
- ・近鉄文化サロン配布チラシ、近鉄友の会ニュースでの事業告知。（H23.7～）

iii) マスコミ関係者との交流促進

マスコミ関係者とのネットワーク構築や理解促進を図るため、積極的な交流を図っている。

- ・在阪マスコミ・旅行代理店等を対象にした情報交換会を実施。(毎年1回)協議会の最近の取り組み等を説明するとともにマスコミ等とのネットワーク構築、会員団体との情報交流をおこなった。
- ・東京で近畿6府県と共同で、首都圏マスコミ・旅行代理店対象の情報交換会実施(H22年度から開始、2回/年)。
- ・ファミトリップの実施(H23.12)
歴史街道倶楽部事業「一筆書でたどる歴史街道の旅」にマスコミを招待し、ファミトリップとして実施。
- ・奈良県観光見本市、三重県観光発表会等への参画による新たなネットワークづくり。

iv) イベント広報の実施

一般の方に広く歴史街道計画及び歴史街道エリア各地の魅力を知っていただくための手段として、イベント型広報活動に取り組んでいる。

・大規模講演会の実施【参考資料参照】

歴史街道計画の知名度向上、歴史街道ルートへの旅客誘致及び歴史街道倶楽部会員の増強を図ることを目的に、東京、大阪で大規模講演会を開催。

東京：H21年度 奈良の三都（飛鳥京、藤原京、平城京）をテーマ

H22年度 熊野街道（大阪～十津川・熊野～伊勢）をテーマ

H23年度 「歴史街道で歴史に親しむ」をテーマ

大阪：H21年度 奈良の三都（飛鳥京、藤原京、平城京）をテーマ

H22年度 熊野街道（大阪～十津川・熊野～伊勢）をテーマ

H23年度 「歴史街道で歴史に親しむ」をテーマ

- ・京阪文化フォーラム（特別版）を京阪電鉄と共同実施(H22.11)
- ・紀伊山地三霊場会議と共催し、「吉野・高野・熊野」をテーマにしたフォーラムを開催(H23.5、H24.3)。
- ・展示活動
『地域の魅力セレクション2009』でPRを実施(H21.7)。
経済産業省中小企業庁が主催する『出会う、ふれあう、地域の魅力キャンペーン地域の魅力セレクション2009』（於・東京国際フォーラム）で、「歴史街道」のPRを実施。
- ・クラブツーリズムが東京で行う「春の文化祭」において、歴史街道計画及び協議会の提供する事業の魅力を講義(H24.3)。

v) 会員団体内部への広報

協議会会員各位のご理解とご協力を得て、各団体の持つ媒体での広報活動を行っている。発信内容はその媒体により異なるが、歴史街道計画及び歴史街道各地の魅力紹介、協議会イベントの告知が大きな柱となっている。

- ・関係団体情報誌でのPR
 - －阪急沿線紙「TOKK」でのPR。
 - －近鉄沿線紙「近鉄ニュース」でのPR。
 - －京阪沿線誌「K P r e s s」等でのPR、車内吊広告にロゴマークを掲出。
- ・会員団体への広報。
 - －パナソニックのイントラネットに協議会活動を定期的に掲載。
 - －「経済人」（関経連発行）、「PREX NOW」での掲載。
 - －個別イベントの情報につき、関西電力、大阪ガス、ダイキン工業、竹中工務店等、会員企業のイントラネットを活用し、情報発信。
 - －近鉄社内報「ひかり」での地域紹介記事の連載。
 - －近鉄グループ「近鉄グループニュース」において、コラムの執筆を開始。
- ・在阪府県協議会で、北陸を中心とする5府県に歴史街道計画及び推進協議会のPRを実施。(H22. 11)
- ・「経済広報」（経済広報センター発行）、「月刊グローバル経営」（日本在外企業協会発行）への掲載。

vi) 海外広報の強化

海外広報に関しては、ホームページでの展開をベースに、外国語対応パンフレットの作成、他団体との連携によるPRなどを行っている。中でも、外国人研修生に対するプログラムについては積極的に実施している【詳細はP13参照】。

- ・協議会ホームページの外国語サイトの改修（H22：英語、H23：仏語）。
- ・総務省「地域の放送コンテンツの海外展開に関する実証実験」において「歴史街道 世界遺産の旅 ～日本仏教の聖地 比叡山・高野山～」が採択。（朝日放送、東通企画とともに応募）台湾で放映された。
- ・フランスのジャパンエキスポにおいて「歴史街道 世界遺産の旅」の放映。
- ・四カ国語パンフレット「世界遺産」について、関西広報センターの「K I P P O NEWS」に概要が掲載。また、同内容がFM-COCOLOにおいても四カ国語で紹介された。(H22. 4)
- ・スルッとKANSAI協議会の海外向けチケット「KANSAI THURU PASS」の購入者を対象としたスタンプラリーを共同で実施した。(H22. 7～9)
- ・JICA、PREXを通じて、外国人研修生に対する歴史体感プログラムを実施・歴史街道の魅力を伝えるDVD（英語版）を作成、同内容をHP上で展開
- ・関西経済連合会等と連携して「関西領事館フォーラム」を運営（H24. 2. 15）。

vii) ホームページの充実

協議会の情報発信はホームページを基礎に実施しており、随時新しい情報の発信に努めている。また毎年少しずつリニューアルを行い、より見やすく利用しやすい環境を心がけている。

- ・第六期計画紹介ページの作成
- ・共同事業参加市町村モデルコース紹介ページの作成（動画（日・英）ページの展開）
- ・イベント紹介ページの改良

- ・各地のパンフレット紹介ページの作成
 - ・五私鉄連携イベント「歴史街道めぐり」サイト作成
 - ・歴史街道の旅の魅力を伝える動画（日本語、英語）の配信開始
- viii) ソフト資産の作成、活用
- 歴史街道の魅力をアピールする材料として協議会が過去に作成してきたソフト資産（映像、イラスト、写真等）を積極的に利用する。
- ・パンフレット「歴史街道へようこそ」の改定、配布
 - ・歴史街道二十一景の活用
 - ・20周年記念誌の作成
 - ・歴史街道の旅の魅力を伝えるDVD（日本語、英語）の作成
- ix) ICT（インフォメーションコミュニケーションテクノロジー）ツールの拡充、開発
- 通信費の効率的な利用、即時性、話題性の供給という観点から、ICTツールの効果的な活用を図っている。
- ・メールマガジン（月刊「DO楽」）の発行（毎月第2木曜）
歴史街道関係者及び一般約7,000件に発信（H21年度4,000件）
 - ・フェイスブックの試験的運用開始

③第六期の課題（第七期計画に向けて）

第六期計画開始とタイミングを同じくして朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」がミニ枠の帯番組から年間2回の特番形式に変更となり、地域を深く取り上げることができるようになったものの、発信頻度の確保が課題となっている。

一方、マスコミ媒体への情報発信がデイリースポーツや、JAF-Mateでの連載企画につながったことは大きな成果であった。第七期においては、さまざまな媒体で継続的に発信する場を確保していくことが問われる。そのためには、マスコミなど、情報発信のキーパーソンとのネットワークの構築等の戦略的な情報発信にこころがけていく。

なお、ICTへの対応については、メールマガジンの発信件数を増やすなど関係者及び一般への広報ツールとしての活用、協議会ホームページ（HP）への誘導などに取り組んできた。今後は、より魅力的なページづくりとアクセス件数UPによる広報力強化のため、フェイスブックの活用やスマートフォン対応など、総合的に取り組んでいく。

関係団体情報誌でのPR



HPの充実



英語・フランス語ページの改修



パンフレット紹介ページ・イベント紹介ページの改修

(2) 提案受託型広報活動－歴史街道「企業研修プログラム」の推進

①事業目的・方針

歴史街道の理念訴求、歴史街道ブランドの強化、歴史街道ファン層の拡大は、協議会にとって、最重要課題である。

「歴史街道づくりの提言」においても言及されている通り、「日本人自身も外国の人々にも、長い歴史に培われた日本の文化とところを深く認識するような実効ある具体的な計画」を開発・展開することは、歴史街道計画の重要な使命であり、活動の原点であると言える。

第六期計画中に新規プロジェクトとして取り組んだ「企業研修プログラム」では、座学コンテンツと現地視察コースをセットにした「日本文化体感プログラム」を開発、国内外の研修者を対象に順次展開してきたが、このプログラムに理解協力をいただいた関係諸団体から高い評価をうけており、今後は、この事業を“わが国のグローバル競争力強化に向けた立国方策”の一つとして国家レベルでの普及を図っていく必要があると考えている。

日本文化の本質を歴史の現場から伝える歴史街道の理念を具体化した「日本文化体感プログラム」は日本人の誇りと自信を取り戻す取り組みであり、グローバル人材の育成に、日本の歴史文化の体感を提唱する「歴史街道」を役立てることは非常に大きな意義があるものと考えている。また、各国の訪日研修員には日本人の技と心の理解を通じて、日本の評価を変えるインパクトをつくるものでもある。

②「日本文化体感プログラム」開発の狙い

グローバルに活躍するビジネスパーソンの基本能力を高める。

<日本から海外へ>

日本文化の長所を歴史街道の空間で再確認し、日本が世界に誇る最先端の技を融合して、世界に貢献する日本の人材を育成する。

<海外から日本へ>

海外からの研修生には、歴史街道の空間の中で、日本の歴史文化に触れてもらい、その背景について理解を深めると同時に、自国の産業育成にいかに関与（応用）できるかを考えてもらう。

③第六期の概要

本プログラムは平成22年度の試行期間を経て、平成23年度から本格的に展開。開始以来、平成23年度末で22回実施。のべ90カ国、300名を超える研修員が体験した。**【参考資料参照】**

委託元機関はJICA、PREXをはじめ、近畿日本鉄道、パナソニック、パナソニックエクセルインターナショナル等と着実に拡大した。

国内の受講者のアンケートからは、9割の受講生が日本文化への関心が高まった、プログラム内容が良かった、そして8割の受講生が今後こういったプログラムがあれば参加したいと回答。「本で学ぶことも大切だが、実際に現地で歴史を目で見て聞いて肌で感じたことがとても印象に残った」「今までは名所を回るだけだったが、背後にあるストーリーを同時に聞くことができ歴史を身近に感じた」など、「座学」と「現地」を組み合わせることで興味が増したと回答。また、「日本史を学んできてはいたが、文化、特に和の心に主眼をおいた講義は初めて。新鮮で興味をもてた」「知らないこと、気がついていなかった日本の良さを知ることができた」など、西洋文化と日本文化の対比や日本文化が現在のモノづくりにつながっていることに興味を示し、文化と経済との関係性に気づきを得た。

海外の受講者アンケートからは「日本の文化を学ぶことは日本の企業について理解を深める一番の方法」「日本文化を知ることがすべての基礎となる」との声が寄せられ、研修テーマとの関連性においても有効であるとの確信を得ている。

座学コンテンツを活用した講演・セミナーは、帝塚山大学、日本広報学会、東京奈良県人会、民間企業・団体、中央省庁の若手・中堅職員が参加する「若手・中堅による政策勉強会」などで実施。関連ホームページにも掲載された。

日本人の価値観・精神風土について解説する座学コンテンツについては、大阪大学・国立民族学博物館・JICAによる「研究者と実務者による国際協力セミナー」（平成23年2月）でプレゼンテーションを行い、学識経験者からの評価・賛同を得ている。

平成24年度からは国立大学初の観光学部を開設した和歌山大学観光学部で歴史街道講義を予定している。

関西経済連合会では都市創造・観光委員会（H23.11.17）、関西領事館フォーラム（H24.2.15）で「日本文化体感プログラム」の体験会を実施した。同連合会の月刊誌「経済人」（H24.3）では本プログラムをクローズアップする記事を掲載していただいた。さらに、日本在外企業協会「月刊グローバル経営」（H24.1）でも、詳細な寄稿記事を掲載し、企業の海外人事部門を中心に歴史街道推進協議会の活動及び当プログラムを発信することができた。

財団法人経済広報センターの機関誌「経済広報」（H24.1）でも紹介記事を掲載し、日本経済団体連合会の会員企業1,600社、オピニオンリーダー層への発信を実現した。

PREXでは「日本文化体感プログラム」を本格始動するにあたり記者説明会（H23.8）を企画。全国紙、業界紙などで本プログラムを発信することができた。

④第六期計画の課題（第七期計画に向けて）

本事業は歴史街道の理念を具体化し日本の国際競争力を強化する取り組みである。グローバル人材育成に向け企業研修プログラムを当協議会の中核を担う事業へと育成していく。そのためにはコンテンツ・PR・体制の整備・拡充が必要である。

第七期計画では以下の課題に取り組む。

- i) 日本文化の本質を解説するコンテンツの充実（英語対応ほか）、現地視察コースの開発
- ii) 企業・団体における研修プログラムへの組み込み提案力強化
講義コンテンツ、視察コースの拡充をベースに対応力を上げ、企業・団体の研修計画における「日本文化体感プログラム」の標準化を目指す。
- iii) 「日本文化体感プログラム」の認知拡大
産官学における認知度を上げ、歴史街道ブランド強化に貢献できるレベルへ。
- iv) サポート体制の整備
推進体制整備及び、会員企業・団体、地域ボランティアガイド等の協力体制整備。

企業研修プログラムの概要



各団体からの評価

公益財団法人太平洋人材交流センター (PREX)	
	現在の日本の制度やものづくりの背景にある「日本人のこころ」をより深く理解してもらうために、歴史街道推進協議会の知見とノウハウを得て、一般的な観光とは異なる、「学び」と「感動」を提供できる日本文化体感プログラムを実施している。このプログラムを通し研修内容がより充実したものになると考えている。
独立行政法人国際協力機構 (JICA)	
	日本文化体感プログラムは、途上国の訪日研修員に日本の歴史文化的背景の理解を深めてもらい、自国の産業育成にいかに対応できるかを考えることで、研修成果の向上につなぐことを狙いとしている。伝統文化と調和した自国の開発の在り方を考える機会を提供できると考える。
近畿日本鉄道株式会社	
	吉野町の取組みと近鉄の関わりについてレクチャーを聞けるなど、官と連携して地域を盛り上げていくことの大切さを学ぶことができた。吉野の歴史、観光の現状と重要性について再認識できた。研修内容については満足している。次年度も実施したい。
パナソニック株式会社	
	歴史街道推進協議会のイメージが変わった。日本文化体感プログラムは今までにない前向きな取り組み。関係連会員企業などもっとPRしていくべきだ。
一般社団法人日本経済団体連合会	
	東日本大震災を経て、我々がこれから何に着眼し、学び直し、世界に発信していくか、またそのために個人で、地域で、国家レベルで何をすべきかについて、大変示唆に富む内容。
公益社団法人関西経済連合会	
	本プログラムは関西にある本物の歴史文化を立体的に発信することで、関西ブランドの強化、日本の認知度向上につながると考えている。関西の強みを生かしグローバル競争力を高める取り組みとして、理解と協力を得られるよう働きかけていきたい。

【座学】

日本文化についてプレゼンテーション



現地の方からの説明を聞く



大学での講義



【現地】

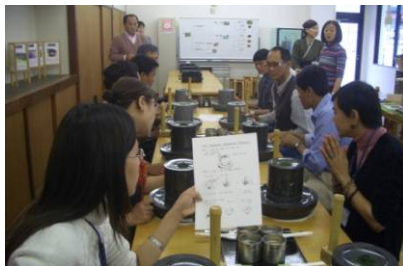
地元のボランティアガイドの案内で現地をめぐる



茶道体験



体験：抹茶づくり



体験：和ろうそくに絵付



(3) 地域文化連携（次世代育成型）広報活動 ―歴史街道「教育プログラム」の推進

①事業目的・方針

新たな価値創造に挑戦できる人材の育成、「歴史街道」ブランドの強化、歴史街道ファン層の拡大及び地域や教育機関と連携したプログラム開発を目指して当該プログラムを推進する。

次代を担う若者や子どもたちが、「歴史街道」を通じて有形・無形の歴史資産、ほんものにふれ、歴史を体感し、先人の知恵や思想、生き方を知ってもらうことで、日本の歴史や文化にもっと親しみ、理解を深め、そのことを通じて日本を元気にしていく人材として育ててほしい。そのような願いを具体化した歴史街道版「教育プログラム」を開発し、様々な“まなび”を提供する。

②第六期の概要

平成21年度、「キッズクラブ（仮称）」プロジェクトとして、先進事業のヒアリングとテスト事業（「文楽親子劇場観賞会」、「チリモン探しと紀州街道」）を実施。

平成22年度、ターゲット及び事業目標を再構築。プロジェクト名称を「教育プログラム開発」とし、プロジェクト目標を日本の歴史文化を伝えるための歴史体験型教育プログラム開発に置く。大学連携（京都文教大学「親子で楽しむ宇治茶の日」、奈良教育大学「親子で探ろう奈良の世界遺産」）でプログラムを具体化し検証。教育機関に学び、協議会独自プログラム『てつ』の町 塚の秘密を探れ」に挑戦。

平成23年度、大学連携（京都文教大学、奈良教育大学）の継続、夏休みには会員企業連携（竹中工務店、竹中大工道具館、斑鳩町）で独自企画「古代建築の謎を探る」を実施。奈良教育大学では世界遺産教育の一環であるユネスコパートナーシップ事業への企画協力を果たし協議会プレゼンスの向上に資する。年度末には春休み企画第2弾『てつ』の町塚の秘密を探れ」を実施。目標としていた四季を通じて展開できるプログラム体系の姿を描くことができた。

また、協力団体連携先からも協議会ならではの取り組みとして高い評価を得ている。

③第六期の課題（第七期計画に向けて）

「歴史街道」計画の発信力を高め、持続成長可能な取り組みにしていくためには、次世代育成に向けた歴史・文化の体験型教育プログラムの開発が不可欠である。教育関係者や企業・団体における本事業の意義と社会的役割の認識を深め、多様なプログラムを提案し実行する力を高めていかなばならない。

第七期では以下の課題に取り組む。

- i) 教育プログラム体系の構築
- ii) 教育界、会員企業・団体とのネットワークづくり
- iii) 歴史街道版「教育プログラム」の認知拡大

平成22年度

10月23日	親子で探ろう奈良の世界遺産（東大寺・興福寺）	奈良教育大学公開講座
11月3日	親子で楽しむ宇治茶の日：宇治茶でチャチャチャ	京都文教大学地域連携学生プロジェクト
3月26日	「てつ」の町 堺の秘密を探れ	堺市・堺観光コンベンション協会

平成23年度

8月21日	古代建築の謎を探る（法隆寺）	竹中工務店・竹中大工道具館 斑鳩町
10月8日	親子で楽しむ宇治茶の日：宇治茶スタンプラリー	京都文教大学地域連携学生プロジェクト、 京都府地域再生プロジェクト支援事業
10月22日	「子供と親の文化遺産講座」 奈良の鹿と人の長くてふか〜い物語	奈良教育大学公開講座
2月5日	「親子で探る奈良の世界遺産」古地図を見ながら歩こう	奈良教育大学公開講座、文部科学省 日本/ユネスコパートナーシップ事業
3月25日	「てつ」の町 堺の秘密を探れ	堺市・堺市観光コンベンション協会



宇治茶の日



「てつ」の町 堺の秘密を探れ



古代建築の謎を探る！



「子供と親の文化遺産講座」
奈良の鹿と人の長くて
ふか〜い物語



「親子で探る奈良の世界遺産」
古地図を見ながら歩こう



(4) 個人会員のネットワークづくり — 「歴史街道倶楽部」の推進

①事業目的・方針

平成6年の発足以来、歴史街道倶楽部では、会員各位が日本の歴史文化に親しみ、その良さを広く市民に伝えていく担い手になってもらうなど、「歴史街道計画」の個人応援団づくりを目指してきた。

第六期における活動のポイントは

- i) 財務体質及び広報活動強化のための重点事業として位置づけ、会員サービスの充実と会員拡大を積極的に展開する。
- ii) 歴史街道倶楽部が実施する講演やイベントへの参加を会員企業・団体に呼びかけ、福利厚生として社員・職員の教養と健康の増進に役立ててもらえるなど会員化による歴史街道倶楽部の活用を推進する。
- iii) 歴史街道倶楽部会員を対象としたイベント、会員獲得のためのR Pやキャンペーンを実施する。

②第六期の概要

ウォーク、バスツアー、歴史講演会に加え、首都圏においてあらたに「東京セミナー」、ミニウォークを実施。近鉄文化サロンとの「五感で体感！にほん文化シリーズ」を立ち上げるなど、新たな世代へのアプローチに挑戦。

平成21年度36回、平成22年度41回、平成23年度48回のイベントを実施。募集定員を超え追加実施するイベントがあるなど概ね高い集客率だった。新規会員獲得に向け毎年入会金無料キャンペーンを実施した。

i) 「歴史のまちウォーク」などイベントの実施

- メインルート事業の検証・コンセプト浸透（実体化）を目途にした取り組み
 - ・「源氏と平家の物語をたどる旅—宇治・奈良・神戸」3回シリーズ(H21年)
 - ・「もう一度まなぶ 日本史の旅」明日香村・奈良市・宇治市・大阪市・神戸市5回シリーズ(H22年)
 - ・「“鏡”から見た古墳のふるさと」天理市、木津川市、城陽市、桜井市4回シリーズ(H23年)
 - ・「一筆書でたどる歴史街道の旅」伊勢市、明日香村、奈良市、京都市、大阪市、神戸市 2泊3日(H23年)
- 首都圏企画の開発（セミナー、他団体連携）
 - ・奈良まほろば館との連携による「東京セミナー」の実施
 - ・日本橋ウォークの実施
- 新ターゲットの開発
 - 子どもを対象にした教育プログラムの展開
 - ・「夏休み文楽鑑賞会」（大阪市）
 - ・「てつの町 堺の秘密を探れ」（堺市）

- ・「古代建築の謎を探る（斑鳩町・竹中工務店）」
- ・「親子で楽しむ宇治茶の日（宇治市・京都文教大学）」「鹿と人の長くてふかい物語（奈良市・奈良教育大学）」
- ・「古地図で歩く奈良の世界遺産（奈良市・奈良教育大学）」ほか
- －女性層を対象とした企画
 - ・近鉄文化サロンと連携し、30代女性を対象とした新企画「五感で体感！にほん文化シリーズ」を2カ月に1度、各コース2回シリーズで実施。
- －一般の方を対象とした企画
 - ・歴史街道倶楽部への入会を促進するため、一般参加も可能とする「おためし企画」を実施（尼崎市、大阪市平野区）
- ii) 会員誌「歴史の旅人」の発行
 - －春号、夏号、秋号、冬号のほか、協議会20周年記念誌を発行。
 - －会員誌「歴史の旅人」改訂
 - 「歴史街道名品めぐり」として市町村の特産品を紹介するページを新設
- iii) ボランティアスタッフ会議の開催
 - －会員誌の編集企画、イベント企画、倶楽部運営等につき、年4回ボランティアスタッフ会議を開催。
 - －ボランティアスタッフを新規募集。会員誌編集、イベント企画に際し積極的にかかわってもらった。
- iv) 他団体との連携によるイベントの実施及びPR
 - －歴史ファンを対象に近鉄文化サロン、近畿文化会と連携し月1回「歴史・文化セミナー」を実施。
 - －近鉄友の会、奈良まほろば館等、他団体と連携したイベントや相互PRを実施。
 - －ホームページの改訂
 - イベント告知、会員誌の紹介、入会方法などをより分かりやすくした。
 - －KIPS協議会、近鉄親栄会、TOYRO倶楽部、企業イントラネット、経済人（関西経済連合会）、近鉄ニュース（近鉄）、TOKK（阪急）、月刊「歴史街道」（PHP）、「歴史街道～わたしのまちの歴史と文化～」（CATV各社）、「歴史街道～ロマンへの扉～」（朝日放送）などで歴史街道倶楽部を紹介。
- v) 会員獲得のためのPR・キャンペーンの実施
 - 新規会員獲得キャンペーンを実施したほか、会員継続率アップのための有効期限複数年化について検討した。
 - －入会金無料キャンペーン
 - 平成21年10月15日～22年1月15日
 - 平成22年10月15日～23年1月31日
 - 平成23年11月15日～24年3月15日
 - －歴史街道倶楽部発足15周年記念会員交流会を開催。
 - －コンビニによる年会費、イベント会費の支払いを開始。
 - －倶楽部会員アンケート調査の実施。会員の維持・強化策の検討。

③第六期の課題（第七期計画に向けて）

会員増強が最も大きな課題。

第六期では新規会員獲得のため、入会金無料キャンペーンを実施。一定の成果は得られたが、退会者数が入会者数を上回る状況が続き、総数としては漸減傾向にある。

倶楽部会員アンケート調査による会員ニーズの分析に着手。抜本的な会員増強対策を講じる必要がある。

第七期においては、会員増強を柱に業務の見直しを行う。サービスの向上につとめ、より広く「歴史街道倶楽部」の存在意義と活動内容を世に浸透させる。「歴史街道」の品位を保ち、既存会員の満足度の向上を図ると共に、若い世代にも受け入れられるよう新たな企画開発を進めていく。

伝統芸能の鑑賞や体験



伝統産業（お茶）の体験



その地域ならではのおもてなしやお話



解説を聞きながら史跡や文化財を見学



2章 歴史文化を活かした余暇づくり

(1) 余暇づくり事業の目的

歴史文化資源が豊富にある歴史街道エリアの特徴を活かし、現地を訪れることで歴史を体感できるさまざまな旅を提案することを通し、歴史文化を活かした余暇を創造する。

(2) メインルートエリアにおける第六期の概要

歴史街道のコンセプトである「日本の主要な歴史の舞台となった伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸への旅のルートを通して内外の多くの人々に日本の歴史文化を体感してもらおう」ため、また多くの方に実際に足を運んでいただき、各地域のにぎわい創出に資するために、余暇づくり事業では「歴史街道ムーブメントの始動」に取り組んできた。

歴史街道ムーブメントの始動

①歴史街道ツアーの造成・実施

首都圏の観光客を対象に近畿日本ツーリストが主催する個人型旅行「日本讃歌 奈良りずむ」の中で、南都隣山会（東大寺、興福寺、西大寺、薬師寺、唐招提寺、法隆寺）と積極的に連携を図り、僧侶の法話及び特別拝観を組み込んだ特別拝観プランをオプションツアーとして共同企画した。

代表的な企画は、以下のとおり。

- ・東大寺 「大仏殿・俊乗堂 特別拝観」
- ・興福寺 「ご講話とお堂でみる阿修羅」
- ・西大寺 「大茶盛と特別拝観」
- ・薬師寺 「お写経と大唐西域壁画と西塔内陣の特別拝観」
- ・唐招提寺 「国宝金堂 平成大修理落慶法要記念特別講話」
- ・法隆寺 「法隆寺管長に聴く聖徳太子の教え」

②歴史街道を歩いて楽しむプランを共同企画

近畿日本ツーリストの個人旅行プラン「歩いて観る歴史街道」を共同企画した。ゾーンごとにテーマを設定し、歴史の舞台を実際に歩くことで時代の流れを体感してもらうことをねらいとした企画内容である。

催行した主な企画は、以下のとおり。

- ・古代史ゾーン・奈良時代ゾーン・平安～室町時代ゾーン
飛鳥「古代ロマンのさと」コース
山の辺の道「日本最古の道で自然に出会う」コース
斑鳩「聖徳太子に触れる世界遺産・法隆寺のまち」コース
奈良「ひと味ちがう奈良」コース

- 宇治「世界文化遺産を巡り源氏物語宇治十帖に触れる」コース
- 伏見「歴史探訪と酒蔵」コース
- ・戦国～江戸時代ゾーン・近代ゾーン
- 京都「京都・新撰組」コース
- 大阪「大坂 上方伝統芸能体験と歌舞伎・落語の舞台」コース
- 大山崎「山崎の合戦 天王山」コース
- 大阪「大坂の陣で活躍した真田幸村」コース
- 西宮「西宮 酒蔵めぐり」コース
- 神戸「神戸開港、旧居留地」コース

③クラブツーリズム関西への企画協力

- ・旅行情報誌「旅の友」共同企画

クラブツーリズム関西の会員50万世帯に毎月発行される旅行案内の冊子「旅の友」で“シリーズ「歴史街道を行く」”を共同企画した。この企画を通じ、多くの人々に歴史街道各地を楽しんでもらうとともに、歴史街道の認知度を上げることに一定の役割を果たした。

「熊野古道中辺路」、「京都祇園祭り」、「大文字送り火」、「安倍文殊院」、「比叡山と坂本ハイキング」、「平等院ライトアップ」、「春日大社・室生寺・朝護孫子寺」、「外宮・内宮お伊勢参り」、「竹田城跡」、「東大寺お水とりと奈良ホテル」、「姫路城不思議発見探訪と赤穂城」、「大和3大しだれ桜めぐり」、「平城遷都1300年祭」、「明日香村、曾爾村ウォーク」等をテーマにとり上げ催行した。

- ・テーマ性を重視した見学ツアー

平成24年1月からテーマを多様化した少人数によるツアー企画に新たに取り組んでいる。

過去から現代を結ぶ歴史文化の連続性をテーマとして展開することで歴史街道の旅企画のこれからの方向を探るツアーとしてトライしている。

「世界遺産・姫路城と社会見学（ものづくりの現場）in 姫路」

「伝統の葛料理と日本酒発祥の地・奈良の酒造り見学（奈良豊澤酒造）」

④寺社、関係団体・施設との連携

歴史街道ツアーとして、南都隣山会、自治体、企業及びボランティアガイド団体との連携を図る事業を展開した。こうした事業を通じて構築したネットワークを今後の歴史街道計画推進の大きな原動力として活用する。

特にボランティアガイド団体とは、毎年秋にメインルート各地のボランティアガイドと連携した事業を行っている。

⑤ 5 私鉄連携事業

在阪の5私鉄と当協議会が共同で「歴史街道めぐり」キャンペーンを行い、歴史街道エリア各地に残る旧街道をテーマとしたハイキングを実施した。同時に沿線自治体の歴史文化に関わるイベント情報を取り込み沿線の活性化と地域振興を図った。

⑥ 語り部プロジェクト

メインルートにおける訪れて楽しい歴史街道づくりの一環としてボランティアガイド、地域の学芸員や教育関係者が連携して地域の魅力を紹介する仕組みづくりに取り組んでいる。

その具体的な形として「語り部ワークショップ」を開催・運営し、「歴史街道・語り部ツアー」を実施した。

平成21年度は「源氏と平家の物語をたどる旅—宇治・奈良・神戸」を3回シリーズで、平成22年度は「もう一度まなぶ 日本史の旅」を5回シリーズ（飛鳥、奈良、宇治、大阪、神戸）で実施した。

平成23年度は、これらの実績を元に今後広く一般に展開を図るための事業の進め方を検討した。

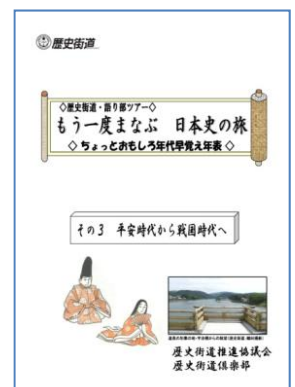
第7期計画において地域連携の各事業を推進する中で、ボランティアガイドのみならず地域の学芸員や教育関係者との協調体制を構築することができたことは大きな成果であった。

5 私鉄との連携事業「歴史街道めぐり」



語り部プロジェクト

平成21年度 「源氏と平家の物語をたどる旅」	10月7日「宇治」 12月16日「奈良」 2月12日「神戸」
平成22年度 「もう一度まなぶ日本史の旅 (日本の歴史・文化の流れをたどる旅)」	6月8日「飛鳥をまなぶ」 9月28日「奈良をまなぶ」 10月14日「宇治をまなぶ」 11月4日「大阪をまなぶ」 1月20日「神戸をまなぶ」



◇メインルートにおける「ボランティア・ガイド」の定点案内

ー地元語り部による定点案内を16団体・24ポイントで実施

PR用のパンフレットを3万部作成し近鉄、京阪、阪急、JR西日本各社の駅で配布。協議会ホームページでPR

・期間：毎年10月～11月始めの土・日・祝

定点案内実施箇所

府県	実施場所	協力団体
三重	伊勢神宮外宮	お伊勢さん観光ガイドの会
三重	いつきのみや歴史体験館 斎宮跡歴史ロマン広場、斎宮歴史博物館	斎宮（いつきのみや）ガイドボランティア
三重	北畠神社	北畠神社
三重	伊聖殿	いがうえの語り部の会
奈良	石舞台古墳・酒船石遺跡「亀形石造物」 高松塚壁画館	飛鳥京観光ボランティアガイド
奈良	今井寺内町重要伝統的建造物群保存地区	橿原市観光ボランティアガイドの会
奈良	桧原神社	桜井市観光ボランティアガイドの会
奈良	黒塚古墳・長岳寺	天理市山の辺の道ボランティアガイドの会
奈良	法隆寺iセンター	斑鳩の里観光ボランティアの会
奈良	朱雀門・ならまち（大乘院庭園文化館）	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会
京都	宇治上神社	宇治観光ボランティアガイドクラブ
京都	松花堂庭園・美術館	松花堂庭園ボランティアガイドグループ「おみなえし」
京都	中山修一記念館	長岡京市ふるさとガイドの会
京都	大山崎町歴史資料館・宝積寺	大山崎ふるさとガイドの会
大阪	大阪城（大手門・桜門・青屋門）	大阪観光ボランティアガイド協会
神戸	異人館街・旧居留地	NPO法人KOBE観光ガイドボランティア



(3) ネットワークエリアにおける第六期の概要

メインルート振興の一方で、協議会発足20年を大きな節目として、近畿全体の観光魅力を分かりやすく発信していくという課題に取り組んでいく必要があったことから、第六期においては、3つのネットワーク（「紀伊半島」「古代史」「戦国～江戸時代」）の考えをベースとしながら、交通事情等を考慮して、近畿を大きく北から「北近畿・琵琶湖」、4つの政令市と奈良・姫路などが位置するエリア（以下「中央部」）、そして南部の「紀伊半島」という3つの広域エリアに分けてアピールする、という方向を模索してきた。

地域性を重視する紀伊半島に全体を揃え、分かりやすさを強調するとともに、滋賀県や播磨、大阪南部においては時代性（戦国～江戸、古代史）を重視。一方で、北部の丹後・但馬地域や福井県においては歴史以外の旅の魅力も取り込んでいくことによって、地域や来訪者のニーズと両立させ、南北3つのエリアにおける事業均等性をできるだけ図っていくとする試みである。

① 北近畿・琵琶湖エリア

北近畿・琵琶湖エリアについては、府県域をまたいで広域的に魅力を発信するための仕掛けづくりや発信ツールの開発を精力的に行った。

- ・広域パンフレットの作成（福井・滋賀・丹後・但馬）
- ・広域マップの作成と現地における貼付の推進（丹後・但馬）
- ・北近畿シンポジウムの開催（於・大阪）
- ・ツアー実施（JAFとの連携事業「車で行く細川ガラシャツアー」など）
- ・福井やまぎわ天下一街道への支援、市町村加盟の促進（福井）
- ・日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の推進（中山道調査、自転車観光の推進、パンフレット・マップ作成、「近江戦国の道」にて自動車を活用したルート案の作成・PRなど）
- ・地域連携会議の開催
- ・観光案内所等のネットワーク形成

② 中央部エリア

中央部エリアにおいては、中央部エリアとメインルートや世界文化遺産との組み合わせを軸に広域での新たな周遊方法を提案することに取り組んだほか、テストツアーの実施、行政・地域ボランティアガイドとともに竹内街道のマップを作成するなど、多面的な事業を実施した。

- ・ルート調査

広域地方計画先導事業の一環で、平成21年度に紀伊半島をのぞく関西の世界文化遺産地域（一部国内暫定リスト入りの箇所を含む）を対象にした調査を実施し、各地の半日周遊コースのモデルコースを開発した。対象地域は、百舌鳥・古市古墳群、飛鳥・藤原京（いずれも国内暫定リスト登録段階）、法隆寺、奈良、京

都・大津・宇治、姫路（いずれも世界文化遺産指定地）であった。

- ・推奨宿泊施設のネットワーク形成（21箇所）
ホテル日航関西空港、リーガロイヤルホテル堺、橿原ロイヤルホテル、奈良ホテル、ホテル日航奈良、ホテルグランヴィア京都、ウェスティン都ホテル京都、ロテル・ド・比叡、柊家、京都嵐山温泉渡月亭、おごと温泉観光協会、リーガロイヤルホテル大阪、ホテル阪急インターナショナル、スイスホテル南海大阪、帝国ホテル大阪、ホテルニューオータニ大阪、有馬温泉観光協会、ホテルオークラ神戸、ANAクラウンプラザホテル神戸、神戸ポートピアホテル、ホテル日航姫路
- ・複数地域をめぐるテストツアーの実施（10本）
「堺の歴史をめぐる」「遠つ飛鳥と近つ飛鳥」「古代大和のロマンをたどる」「山の辺の道」「太子ゆかりの三寺と藤ノ木古墳」「奈良で仏像を堪能する」「源氏ロマンの宇治と伏見・山崎」「京都東山の社寺めぐり」「比叡山延暦寺と里坊・坂本をめぐる」「愛宕街道（鳥居本）と嵐山花灯路」「姫路城・書写山と瀬戸内の魅力」
- ・朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」映像（32本）をHPで公開
<http://www.rekishikaido.gr.jp/heritage/course/>
- ・台湾において「比叡山・高野山」を紹介するテレビ番組を放映
- ・四カ国語パンフレットの作成と各国での配布
- ・竹内街道の調査、マップの改訂（街道沿いの自治体、ボランティアガイド団体等と協同で作成）
- ・百舌鳥・古市古墳群、飛鳥・藤原京の世界遺産登録推進

③ 紀伊半島エリア

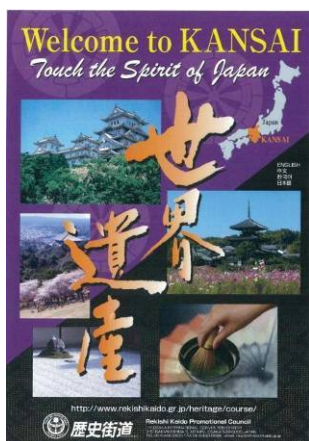
紀伊半島エリアについては、講演会等で地域の魅力を積極的に発信することに注力するとともに、県域をまたいで広域的に魅力を発信するための仕掛けづくりや発信ツールの開発を精力的に行った。

- ・東京において1回、大阪において3回のシンポジウム（うち2回は紀伊山地三霊場会議との共催）を開催。
- ・三県連携による「吉野・高野・熊野の国」に対し、パンフレットの制作協力、配布協力などをおこなった。
- ・東紀州観光まちづくり公社、尾鷲市、熊野市、紀宝町など三重県南部の組織、市町村や地域リーダーとの関係づくりなどを通し、歴史街道計画への理解を促進した。
- ・台湾において「比叡山・高野山」を紹介するテレビ番組を放映した。
- ・「古座街道と南方熊楠ツアー」などのツアーを企画。
- ・紀伊半島交流会議の事務局を引き続き務め、メーリングリストによる情報交換や地元イベントへの協力などをおこなった。
- ・紀伊半島から南大阪にかけて約40の観光案内所等のネットワークを形成。外国人向けの共同ファイルの設置、歴史街道iセンターや北近畿・琵琶湖エリアの案内所（計100箇所）における広域パンフレット設置などを開始した。

広域パンフレットの作成と配布



風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」事業の推進



<p>1st day Arrive in Kansai. Visit Osaka and Osaka by train.</p> <p>Osaka Mikano-Umida Tunnel, Experience "The Gateway to Kansai" / Osaka</p> <p>2nd day Enjoy Ancient area and old city Nara.</p> <p>Nara Kasuga Park, Nara Park, Nara Park</p> <p>3rd day Experience Japanese culture in Nara and Kyoto.</p> <p>Nara Kasuga Park, Nara Park, Nara Park</p> <p>Kyoto Gion, Kyoto, Kyoto</p>	<p>4th day Enjoy Kyoto.</p> <p>Kyoto Gion, Kyoto, Kyoto</p> <p>5th day Visit Historic sites like Arima hot springs.</p> <p>Kyoto Gion, Kyoto, Kyoto</p> <p>6th day Arima, Kobe or C.</p>
---	---

世界遺産をめぐるルート



モデルツアーの実施

(4) 第六期の課題（第七期計画に向けて）

①メインルートエリアにおける第六期の課題（第七期計画に向けて）

語り部プロジェクト、旅行エージェントとの歴史街道ツアー造成を通じて、多くの人に日本の歴史文化に触れる旅を体感してもらうことができた。また、地域団体とのネットワークを広げることで、メインルート各地域へのデスティネーション化に努めてきたが、以下の課題が残されている。

- i) 旅づくりの目的と対象の明確な設定
- ii) コンテンツ（語り部ツアー、リレー現地講座等）の活用
- iii) 旅をより楽しくする仕掛けづくり
- iv) 積極的な情報発信

②ネットワークエリアにおける第六期の課題（第七期計画に向けて）

第六期において3つのエリアに分けて広域PRするための環境整備や情報発信に取り組んできたが、おおむね所定の成果を残すことができた。今後ネットワーク事業が次のステップに向かうためには、エリアごとの魅力を分かりやすく発信する基本型を整え、効果的な成果が得られるよう広報計画と連動させていく必要がある。

すなわち、「古代史ゾーン、江戸時代・戦国ゾーン」である北部の「北近畿・琵琶湖」（滋賀県・福井県・兵庫県北部・京都府北部）は「主に京阪神をターゲットに歴史文化を大事にしつつ、それだけにこだわらない広域観光エリア」。中央部はメインルートとの重層性や世界文化遺産をふまえつつ、「国際観光を強く意識したエリア」。南部の紀伊半島は、趣ある古道、日本人の精神文化の源流が垣間見える（例：神仏習合、修験道）ことなど、極めて特徴的な場所であることから、「全国からの歴史文化ファンが長期滞在または、リピーターとして訪れるエリア」と位置づけ、ターゲットをある程度明確にした手法を取り入れていく。

こういった方向性を基本に据えることにより、「3つのエリア」それぞれにおいて、事業ノウハウを相互に活用し、個性ある事業展開をおこなっていく。

ただし、実際の事業展開に当たっては個別の歴史文化資源の魅力に応じ、海外または全国的に情報発信を行うことも十分に考慮することとする。

3章 歴史文化を活かした地域づくり

(1) 地域づくり事業の目的

地域と協議会が連携を深め、併せて地域ポテンシャルの活用（ソフト、ハードの地域環境整備、人づくり、広域ネットワークの整備、情報発信拠点の整備など）に取り組み、地域の活性化を図ることを目的とする。

(2) メインルートエリアにおける第六期の概要

①第六期における新規事業の面的展開

日本文化体感プログラム（京都、宇治、奈良等で実施）、教育プログラム（宇治、奈良、斑鳩等で実施）を各地域の協力を得て、順次展開を図り、歴史街道コンセプトの周知、地域の歴史文化資源の活性化に取り組んだ。

②伊勢～飛鳥間事業

平成25年に行われる式年遷宮に向け、伊勢市及び伊勢街道（本街道、初瀬街道）沿いの市町村の各団体（行政、まちづくり団体、ボランティアガイド団体）で活動が活発化してきており、協議会としては、これら団体をつなぐ役割を日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会とともに担ってきた。

具体的には地域間相互の人的交流の促進及び知識の向上、歴史文化資源の再発見と整備（交流フォーラム、交流会の開催、展示パネルの製作、道標の移設活動等）を通じ、伊勢街道の魅力向上に努めてきた。このような取り組みを進める中で、初瀬街道・伊勢本街道のシンボルマークの作成、案内看板の設置ガイドラインの制定を行ったところ、津市や曾爾村、宇陀市等において、これを活かした看板等が実際に展開され始め、街道の一体感が醸成されつつある。

また、三重・奈良・和歌山の3県交流活動の中で、意見交換を通じ、今後の展開に必要な事柄や課題の抽出にあたっている。

③飛鳥～奈良～京都間事業

歴史資源と共通テーマの掘り起しの勉強会、情報交換会の開催、共通テーマによるリレー現地講座の推進、シリーズ化などに取り組んでいる。特にリレー現地講座は、平成23年度、天理市を皮切りに木津川市、城陽市そして桜井市と「鏡から見た古墳のふるさと」を共通テーマに行い、参加者から高い評価を得た。

また、風景街道「まほろば」連絡協議会との連携を図った。具体的には「歩いて楽しいルートづくり」を目指して、①「語り部と歩くツアー」の開発（モデルコースづくりを目的とした勉強会＋フィールドワークの実施）②まほろばルートのイメージパ

ネルづくり③拠点の設定（情報拠点の核として「三輪座」：JR三輪駅前案内所）の各事業の推進に協力してきた。

④京都～大阪～神戸間事業

京都～大阪～神戸間を広域で連携するキーワードとして西国街道を据え、自治体と博物館等が広域的に連携することによって、西国街道全体の歴史文化への理解と関心を深めてきた。これを実体化させたものとして「魅力再発見 西国街道」と題し、関係自治体、博物館と協議会が協調し、特別展示、講座、ウォーク、スタンプラリー等を複合的に行い、西国街道へのデスティネーションと地域の活性化を図ってきた。

⑤「京街道」事業

京都～大阪間の淀川左岸地域の広域事業については協議会独自の企画として地元社寺、企業の協力のもと、地域の隠れた歴史を見ながら魅力再発見をする事業「京阪沿線 歴史街道をたずねて」を展開し高い評価を得ている。

⑥応援団とのきずな強化

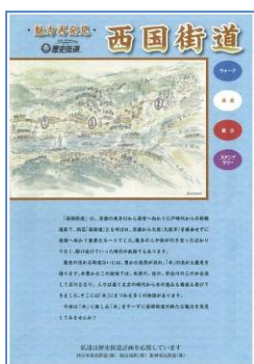
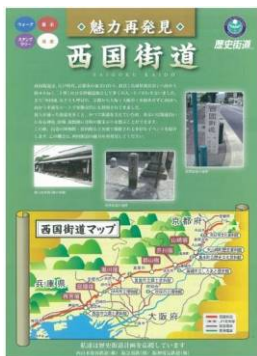
歴史街道の語り部として今後展開しようとする各種事業への応援団となってもらうため、各自治体の学芸員、ボランティアガイド団体等との新たなきずなづくり、関係強化をし、情報交換会あるいは自治体との連携事業を通して信頼関係を構築してきた。

イベントを通じた歴史資源と共通テーマの掘り起こし



平成 23 年度 「鏡から見た古墳のふるさと」	4 月 1 3 日	「天理編」	黒塚古墳、崇神天皇陵ほか
	6 月 1 0 日	「木津川編」	椿井大塚山古墳ほか
	1 0 月 2 6 日	「城陽編」	車塚古墳ほか
	1 2 月 1 日	「桜井編」	纏向遺跡ほか

西国街道をテーマにした施設連携



PR 用パンフレットの作成
シンポジウム、リレー展示・イベントの実施

京街道をテーマにしたウォークイベントの実施



平成 22 年度	2 月 24 日、26 日	二つの淀城と戊申戦争の足跡・京都競馬場
	3 月 27 日、30 日	見所多い、墨染・藤森の歴史散策
平成 23 年度	10 月 18 日、20 日	深草界限めぐり
	11 月 9 日、11 日、22 日	伏見稲荷大社 お山めぐり
	12 月 10 日、14 日	守口宿と松下幸之助歴史館

(3) ネットワークエリアにおける第六期の概要

①歴史街道モデル事業のフォローアップ

国への要望・提案活動を引き続き実施した。

福井県	南越前町（旧・今庄町、南条町）、あわら市（旧・金津町）、永平寺町
滋賀県	彦根市、大津市、近江八幡市、甲賀市（旧・土山町）
京都府	宇治市、京都市、木津川市（旧・木津町）、乙訓・八幡地区、亀岡市、園部市、口丹後地区、北丹後地区、南丹市（旧・八木町）
大阪府	羽曳野市、枚方市、高槻市、阪南市
兵庫県	姫路市、豊岡市（旧・出石町）、加西市、宝塚市、たつの市（旧・竜野市・御津町）、篠山市、洲本市、丹波市（旧・柏原町）、朝来市（旧・生野町、和田山町）、多可町（旧・中町）、三木市、猪名川町
奈良県	明日香村、斑鳩町、宇陀市（旧・室生村、大宇陀町）、吉野町、西熊野街道地区
和歌山県	橋本市、紀の川・大和街道地区、新宮市、海南市、高野町、那智勝浦町、田辺市（市街、旧・本宮町）、口熊野周辺地区

②市町村共同事業の推進

スタンプラリー、のぼり掲出、HPでのPR、メディアとの交流等に加え、スタンプポイント周辺に33の半日コース調査、調査結果のHP上での公開（日・英）などの事業を推進し、メディアへの優先的な露出を図った。

－スタンプラリー

共同事業市町村の各地（歴史文化スポット、情報発信拠点など）に置かれてあるオリジナルスタンプを集めるスタンプラリーは景品応募が年間6～7千人と好調に推移。PR用のリーフレット（26万部作成）を配布した。「完走」したが応募を行わなかった人、始めたが「完走」に至らなかった人の割合などを考慮にいと、非常に多くの方がスタンプラリーを楽しんでおられることが見て取れる。

また、同事業は約20年間継続して実施していることから、各地や「歴史街道」への訪問・理解に相当の貢献をしている。

－情報交換会

市町村共同事業参加自治体と府県、関西のメディアや旅行代理店、鉄道会社などとの情報交流、ネットワーク構築を目的に毎年1回情報交換会を実施している。メディア側の参加社が20社程度と、概ね定着してきた。

－33の半日コース設定

共同事業市町村内の33ポイントで半日コースの設定、検証を行った。これは、地元ではよく知られた情報が、外部にはあまり知られてはいないという問題意識に基づいて実施したもので、歴史街道ならでの視点を織り込んだコース設定となっており、成果はホームページで公開している。

33の調査地は以下の各地である。

伊勢、桜井、明日香、斑鳩、天理、西の京、奈良公園、奈良町・高島、平城宮跡、宇治、東山、哲学の道・岡崎、洛中・京都御苑、きぬかけの路、嵐山・嵯峨野、大原、伏見、二条城中之島・堂島、大阪城、道頓堀・適塾、有馬、旧居留地・南京町、北野異人館街
岸和田、姫路、三木、大津、彦根、信楽、吉野、堺、与謝野

③メインルートの事業成果の面的展開

広域案内所ネットワークの定着を目指して、歴史街道 i センターに加え、平成 21 年度までに紀伊半島、平成 22 年までに北近畿・琵琶湖の観光案内所のネットワークを行い、平成 23 年度には計 100 箇所を目標に他地域の情報をまとめたファイル設置（外国語含む）や「歴史街道」の基礎資料、広域パンフレット（3 種）が配布できる仕組みづくりを行ってきた。

メインルートを中心に実施されてきた事業ノウハウをまず紀伊半島で活用し、それをさらに北近畿・琵琶湖エリアでも展開することで近畿全体の底上を図った。

④着地型観光事業者（DMC）との関係づくり

観光庁などが主導する「着地型観光」志向者（社・団体）に対するセミナーに積極的に協力。大阪で開催された平成 21 年セミナーには、協議会などの呼びかけに応じ約 60 名が参加する盛況となった（各地方圏で最多）。

平成 23 年冬には着地型観光を目指す団体の全国的な受け皿となる「観光地域づくりプラットフォーム推進機構」が設置されたが、協議会は近畿圏における同事業の推進に一定の役割を期待される立場になっている。

⑤地域リーダーとの交流、全国の関係事業への協力

この分野への取り組みは紀伊半島交流会議、日本風景街道事業、着地型観光事業者（DMC）のネットワーク、また世界文化遺産関係のネットワークづくりなどであり、第六期ではそれぞれについて個別に取り組んできた。

また、「歴史街道」上に世界文化遺産が 5 箇所、市町村数にして 30 近くが存在することから、平成 23 年の「世界文化遺産」地域連携会議の発足・運営に協力し、市町村、地域リーダー等との連携を強化した。（6 地域と 17 名の地域リーダーなどが同会に参加。京都市長が会長、奈良・姫路・斑鳩が広島・日光とともに副会長に就任）

⑥調査受託

平成 21 年度に国土交通省の「広域地方計画先導事業」、平成 23 年度に同じく「官民連携主体による地域づくり推進事業」を受託した。

スタンプラリーによる周遊促進



協力寺社・施設等

奈良県立万葉文化館	石上神宮	薬師寺		
唐招提寺	東大寺	奈良町物語館		
奈良市写真美術館	平城宮資料館	清水寺		
高台寺	平安神宮	龍安寺	等持院	京都文化博物館
仁和寺	野宮神社	大覚寺	天竜寺	二条城
適塾	大阪城	国立文楽劇場	神戸市立博物館	
姫路城	旧竹林院	彦根城		



案内所の広域ネットワーク
パンフレット等の相互配布の促進



街道の検証と魅力発信ツールの作成



シンポジウム「歴史・文化・自然～北近畿の魅力発信～」の開催

(4) 第六期の課題（第七期計画に向けて）

①メインルートエリアにおける第六期の課題（第七期計画に向けて）

メインルートエリアにおいては、時代に沿ったゾーンに応じた事業展開、ネットワーク構築に努めてきたが、第七期計画に向けての課題は、下記の2点に集約される。

- ・地域ごとに実施してきた連携事業を総合的にとらえ、どのように有機的に結びつけてゆくかを見直し、メインルートの一層の充実につなげる。
- ・地域づくり事業で培ったコンテンツ、ソフトを余暇づくり事業に有効に活用する。

②ネットワークエリアにおける第六期の課題（第七期計画に向けて）

ネットワークエリアにおいては、第六期において行ってきた諸活動を継続させるとともに活性化を図るための前向きな提案及びネットワークづくりが問われる。

- ・現在も整備が継続している「歴史街道モデル事業」地域について様々なフォローアップを行う。
- ・さらなる新機軸づくりを含め、市町村共同事業の活性化を図って行く。
- ・近畿全域にわたる観光案内所等のネットワークを軌道に乗せるとともに、メインルートを中心に実施されてきた事業の中で面的展開が可能なものの実施について検討して行く。
- ・各地域や全国規模で活動する関係組織との連携を強化し、地域づくりリーダーのネットワーク化などに取り組んで行く。

4章 協議会運営

(1) 会議の運営

協議会活動の報告と審議をはかるため、従来、年1度の総会（及び理事会）の他、主要な事業推進のための諮問機関として運営部会・幹事会、会員への事業報告及び交流を図るための全体会議をそれぞれ、年間3～4回開催してきた。

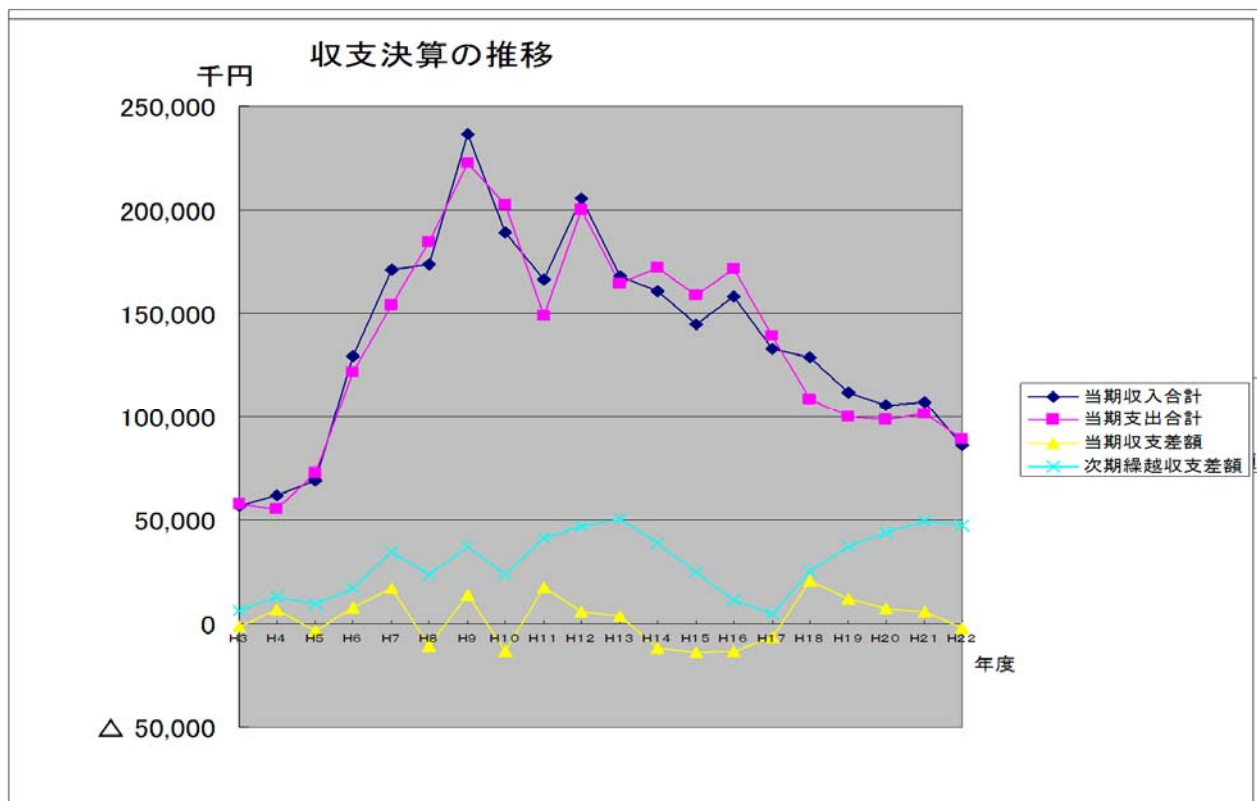
(2) 要望・提案活動

関係官庁及び機関に働きかけ、「歴史街道モデル事業の推進」「観光庁改革」「伝建地区での優先的電線地中化」等の要望・提案活動を行ってきた。また、「国土政策審議会」や国土交通省における「成長戦略会議」等の議論にも参加・協力してきた。

それらのことが平成21年度の「広域地方計画先導事業」や平成23年の「官民連携地域づくり事業」の採択（全国で3団体）といった成果につながった。

(3) 収入・支出の推移

過去20年間の事業収支の推移は、以下のとおりである。



平成9年度をピークに協議会運営のための収入は、大きく減少している。

その最大の原因は、歴史街道モデル事業の減速や類似活動団体の出現による海外向け広報活動のための受託事業の終了によるものであるが、これらに加え、平成13年度以降は、市町村合併等に伴う自治体会員の退会減少、経済環境等の不透明さによる法人会員の会費節減等の影響があげられ、事業運営のための資金調達が極めて厳しくなっている。

(4) 協議会組織の検討

歴史街道推進協議会は、発足以来、“任意団体”として活動を続けてきた。第六期計画の期間中、運営部会及び幹事会において「社団法人」化を前提として協議会運営組織の検討を行ったが、メリットやデメリットが不透明であるとの結果、関係諸団体の動向を勘案した上、時宜を見て結論を出すことになった。